



発行所 島根日日新聞社 〒693-0001 出雲市今市町743-22

山陰あれこれ

105

番外編

令和2年9月7日(掲載予定なし)

藤嶋昭・とみ子ご夫妻のこと

酒井 董美ただよし

新型コロナウイルス禍で外出もままならぬ七月のこと。標題のお二人と思いかけぬ出会いがあり、急速に交遊を重ねているこのごろである。藤嶋昭氏は光触媒の発見者として知られ、ノーベル化学賞受賞の有力候補であり、東京理科大学荣誉教授(二年前まで八年間同大の学長)。とみ子夫人は日本舞踊の師匠の傍ら、文筆を良くし、住まいのある川崎市の歴史、行事などを丹念に記録、『四季の眺め』、昭和・平成のおもいで、この三月、川崎市文化賞を受賞されている。

こう記せば、まさに中央の超エリート夫妻であり、山陰の片隅の筆者とは何の関わりもない存在のはずであるが、縁は不思議なもので、何が気に入られたのか、次々とお二人の著書など九冊の恵贈を受けているのである。きつかけを記しておこう。

昨年六月、岩手県遠野市での全国地名研究者大会に出席した際、川崎市から見えていた元ソニーの重要ポストにおられた荒金民雄氏と親しくなり、書簡のやりとりを続けていた。そして筆者が七月に上梓した『鳥取のわらべ歌』(今井出版)を献本したところ、氏から一冊購入したいと連絡があり送ったところ、藤嶋とみ子氏にプレゼントされたのである。やがて七月二十八日の日付で「親しみのある本で楽しんでます」と礼状に添えて氏の玉著『四季の眺め』、昭和・平成のおもいで(A5・三〇九ページ)が贈られてきた。筆者にとっては全く存じ上げない方であり、考えてもいなかったことだったので、驚きながらその本を拝読し、中身のすばらしさにすっかり感心しながらも誤植などが六ヶ所あるのに気づいたので、読後感に併せて再版の折りの参考にとそれを指摘しておいたのである。すると早速、便りがあり、これまで誤植の指摘を受けたことはなかったが、その通りですと、大いに感謝され、それが元でご主人の昭氏が講書始に天皇皇后陛下に講じられた「太陽エネルギーと光触媒」の収められている『天皇皇后陛下が受けた特別講義・講書始のご進講』の献本を受けたのである。モノクロ人間というのか、時代遅れの人間とでもいうのか、これまで光触媒がどのような作用をし、私たちの環境改善に如何に大きな役割を果たしているのかということも知らなかった筆者であった。

けれども今回のことから、一般人の常識となっている光触媒についての概要が理解できるようになった筆者である、そうしてお二人とのやりとりが続き、本日(九月七日)現在、『第一人者が明かす光触媒のすべて』をはじめ合計九冊の献本を筆者は受けている。筆者としてはお返しに自分史『民話に魅せられて』―ある田舎教師の歩み―や自費出版の『マイカー人生』を献本しただけである。昭氏からは外国人留学生にあげてほしいと、中国語版や英語版の光触媒に関する本もいただいたので、ご厚意を無にしないよう早速、県の文化国際課や島根大学の企画部国際交流課に斡旋してもらおうよう出かけたりにしているところである。

「瓢箪から駒」という俚諺があるが、人生の終盤になってこのような想像も出来ないような出来事が起きるとは、まさに「お釈迦様でもご存じあるまい」なのである。(元

島根大学法文学部教授)